

各 位

会 社 名 プレミアアンチエイジング株式会社
代表者名 代表取締役社長 松浦 清
(コード番号：4934 東証グロース)
問合せ先 執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長
上原 祐香
(TEL. 03-3502-2020)

2025年7月期第2四半期（中間期）業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2024年9月12日に公表いたしました2025年7月期第2四半期（中間期）連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2025年7月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異（2024年8月1日～2025年1月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想（A） （2024年9月12日）	百万円 8,500	百万円 △150	百万円 △160	百万円 △160	円 銭 △18.35
実績値（B）	8,528	977	970	581	66.67
増減額（B - A）	28	1,127	1,130	741	
増減率（%）	0.3	-	-	-	
ご参考：前中間期実績 （2024年7月中間期）	10,649	△205	△199	△1,685	△193.25

2. 差異の理由

2025年7月期中間連結会計期間における売上高は、当社で行っているアンチエイジング事業の売上が減収となったものの、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が順調に伸長したことから、ほぼ計画通りの着地となりました。

一方利益面では、新規獲得の広告効率が十分には改善しなかったことから広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回りました。また、コスト構造改革の推進により人件費・システム費・業務委託費等の固定費の削減が計画を上回って進捗しました。加えて、リカバリーウェアに対する社会の認知・関心が急速に高まり、リカバリー事業の売上が順調に伸長し、利益が増加しました。

以上の結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益ともに予想を上回る結果となりました。

なお、当社のアンチエイジング事業を取り巻く事業環境は引き続き厳しく、通信販売及び卸売販売に加え、伸長を計画していた中国市場についても慎重な見方を継続しております。また下期には「デュオ」のリニューアル新発売や新たなスキンケアブランド「Lalaskin（ララスキン）」の一部店舗における先行発売等に合わせた広告・販促投資を予定しているほか、市場が急速に拡大しているリカバリーウェア市場において、ベネクスブランドの認知を高め、更なる売上成長を促すための追加のマーケティング投資を予定しています。これらの理由から、2025年7月期連結業績予想につきましては、2024年9月12日に公表した金額から変更しておりません。

今後、業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに公表いたします。

以上